

第 18 回火山噴火予知連絡会議事録

日 時 : 昭和 55 年 2 月 14 日 (木) 13 時 30 分～17 時 30 分

場 所 : 気象庁第 1 会議室

出席者 : 永田, 横山, 高木, 浅田, 下鶴, 行武, 青木, 久保寺, 加茂, 太田, 倉持, 城野, 飯田 (文部省), 小野, 春山, 茂木, 高橋, 末広, 田 (気象研), 河村, 神沼 (幹事)

臨時委員: 荒牧 (震研), 小坂 (東工大)

オブザーバー: 北村 (科技庁), 染野 (国土庁), 平畑 (文部省), 熊谷 (防災センター), 三宅・久本・金沢・泉 (気象庁), 田中 (気象研)

庶 務 : 庶 務: 清水, 永福, 斉藤, 小宮

〔議事に先立ち, 永田会長から次の紹介があった。臨時委員: 東京工業大学工学部教授小坂丈予氏。委員異動: 科学技術庁生活科学技術課長平野拓也氏から倉持哲士氏。〕

1. 第 17 回連絡会議事録 (案) 及び昭和 54 年 11 月 19 日開催拡大在京幹事会議事録 (案) は, 一部字句修正のうえ承認された。

2. 最近の火山活動

2.1 御岳山

城野委員: 立入規制・地元の要望等について。

清水 (気象庁): 活動の経過。

下鶴委員: 山の直下の A 型地震と, 山体内の B 型地震とを検出できた。

田中 (気象研): 空中赤外映像について。

青木委員: この地域の地震のうち, 山の下地震だけとり出すと, 11 月末と 12 月末に活動の山があった。これらの中には A 型地震も B 型地震もある。また, 微動も観測された。辺長測量では 11 月に山腹のちぢみを検出した。

春山委員: 山麓の地殻変動について。

小坂委員: ガス組成は高温型である。

総合検討

青木委員: 山の下地震活動レベルは低いし, また低下しつつある。今後, 山の下で A 型地震が増加するようなことがあれば, 名大で分るし, 群発地震の震源精度を更に向上させる予定もある。1 年は観測を続けるべきだ。

永田会長: 気象庁は業務的に監視を続けなければならないが, 方策はいかがか。

末広委員: 今後の体制については, 名大・東大・気象庁であとで検討したい。気象庁は山の下地震を検知できるような対策をとりたい。

御岳山の火山活動に対する統一見解

「10 月 28 日噴火した御岳山はその後約 100 日を経過したが, この間噴火は発生していない。噴煙

活動も多少の変動を伴いながらも徐々に減退傾向にある。しかしながら、その後の観測によれば小規模ながら御岳山の火山活動はいぜんとして続いている。

これらの結果からみて、山頂及びその周辺を除く地域に大きな影響を及ぼす噴火が今後発生することは考えられない。なお監視観測は今後も続行する。」

2.2 阿蘇山

清水（気象庁）：活動の経過

久保寺委員：11月2日と1月26日の噴火について。12月以降微動は小さい状態にある。

田中（気象研）：空中赤外映像によると、熱分布は1974年の活動期に似る。

久保寺委員：今後も1月26日のような噴火が発生する可能性があり、立入規制を続けるべきだ。

2.3 桜島

清水（気象庁）：活動の経過。

加茂委員：1979年5月～8月の無爆発期の後には、爆発的でない噴火が増し、火口内でストロンボリ型噴火を行っているらしい様子もみえた。

2.4 有珠山

清水（気象庁）：活動の経過。

横山委員：震源の分布に殆んど変化はない。火口原外の震源を8ヵ月分まとめて図示すると、北側山麓の構造線沿いに分布するパターンがえられた。昨年1年間の、新山・オガリ山の隆起は直線的に進行し、18m（5cm/日）高くなった。外輪の押し出しも同じ位進行した。隆起率及びエネルギーの変化曲線より推定すると、活動が落ちつくのは数年後になると思われる。

2.5 樽前山

横山委員：震源分布。

2.6 吾妻山

高木委員・他：集中観測の結果について。

2.7 南硫黄島南方海底火山

茂木委員：活動状況報告。

2.8 岩手山

高木委員：葛根田川の噴気活動。

2.9 その他

春山委員：火山基本地形図作成区域等について。

3. 活動状況まとめについて

永田会長より次の提案があった。「次回に、主要火山の最近の状況についてレビューを行いたい。公開を前提としたまとめの文章を以下の分担でお願いする。桜島－加茂、阿蘇山－久保寺、霧島山－下鶴、御岳山－青木、浅間山－下鶴、伊豆大島－下鶴、有珠山－横山 以上各委員」

永田会長、下鶴委員、青木委員記者会見のため退席により、以下横山委員が会長代行として議事を進行。

4. ランドサット利用について

高橋・茂木・加茂委員：経験から、山は雲が多いため利用できる写真は数%しかないといえる。

小野委員・神沼幹事他：海面温度等はよく分るのだが，山は難しい。解析の目的をはっきりさせる必要がある。また，グランド・ツルースと対応した基礎研究が必要である。解析装置の共有も検討すべきだ。

横山会長代行：気象研と防災センターで問題点を検討していただきたい。

5. 神沼幹事よりエバレス山の近況について報告があった。

6. 連絡会庶務報告

7. 協議事項

1) 次回連絡会開催期日

火山学会春季大会の前後を予定

〔17：00～17：40 記者会見 気象庁記者室〕